

最近僕にとって大きな出会いとなった作品が『男はつらいよ』です。コロナ禍のステイホームをきっかけに久々に観てみたところ、どっぷりとハマってしまいました。

1960年代後半から90年代半ばにかけて48作も撮られたシリーズですが、テキ屋の寅さんが全国各地を行商しながらいろんな人と出会い、恋に落ち、帰郷するたびに柴又の家族や友人たちとてんやわんやを起すお決まりのパターン。この歳になって、この時代になって、いま改めて観ると、まったく違った印象や感動を受けることになりました。

そこに映っているのは、昭和の古き良き日本の美しい風景や情景でした。賑わう香ばしい商



©1969 松竹株式会社  
『男はつらいよ』  
DVD：税込1980円  
販売元：松竹

忘れてはならないものを思い出させてくれる



僕が知らなかったこと  
土佐和史さん  
\私の一本/  
『男はつらいよ』

店街や飲み屋、夕暮れ路上にチヨークで落書き遊びする子どもの近所付き合ひ、家族や友人の話にみんなで一喜一憂し、ケンカしたり涙を流したり。人ってこんな近くに近かったんだあと。いつも見終わったあと温かい気持ちになります。

「寅さん」は、忘れてはいけない、無くしてはいけないものをそっと思い出させてくれる、僕のこれからの人生のバイブルになりました。

考えることを楽しめばいい



やぎさんメーる  
小森淳子さん  
\私の一本/  
『ハンナ・アーレント』

この映画、映画館では観ていなくて、DVDを購入して観ました。なので何回も好きな場面を観ています。私が好きな場面は、アーレントが大学を追い出されることになって、最後の講義をする場面。ヘビースモーカーの彼女は煙草を吸いながら、「私が望むことは、考えることで人間が強くなることです」と大きな声でゆっくりと、階段式の講義室に詰め詰めに座っているたくさんの学生たちに向かって言います。

自分の「考える」という行為は本当に考えていると言えるかと考えていた私に、アーレントが「つべこべ言わず、考えるのは、今でしょ」と言ってくれたような気がしました。その頃私は、子どもたちが家を出たのを

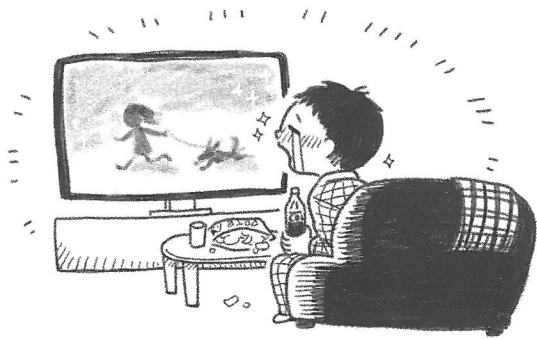
NO IMAGE

『ハンナ・アーレント』  
(2012、ドイツ・ルクセンブルク・フランス)

機に大学院に行っていた時期で、研究の世界が想像していたものとは少しちがって、ちょっととまどっていました。でも、この映画を観て、考えることは、その結果よりもプロセスが大切で、それを楽しめばいい、自分の頭で思いきり考えようと思えるようになりました。私の人生の第三幕に、背中を押してくれた映画です。

連載者に聞く！ 私の一本

人生を変えたあの作品



仲間と親とあゆみ続けて  
佐藤さと子さん  
\私の一本/  
『天空の城ラピュタ』

自分の信じるものへひたむきに進む姿に感動

私がいちばん印象に残っている映画は『天空の城ラピュタ』です。1986年大学2年生の夏、アニメファンだった私は映画館で観ました。

「機械がまだ機械の楽しさをもつ時代、科学が必ずしも人間を不幸にするとは決まっていないう頃、西洋風のどこかわからない国を舞台に、まだ人間が世界の主人公であり、人々は自分の肉体と精神を信じ、人々の運命は自分によって変えることができるし、さりひらくこともできる。人は自分の生き方を自分に任され、貧乏もあるが助け合う心もある」という設定で12歳の孤児パズーが貧しくても、みんなに助けられながら生活をしている姿に自分自身が感動し、冒



©1986 Studio Ghibli  
『天空の城ラピュタ』  
(1986)

険と人間ドラマに引き込まれていきました。映画のめざましいのは、笑いと涙、真情(偽らない心)あふれる素直な心、心のふれあい、相手への献身、友情、自らの信じるものへひたむきに進んでいく人間の理想であり、700年前に滅びたラピュタ王国のロボット兵が緑に覆われて眠っているシーンはとても印象に残っていて、今の私たちに多くの課題を提起してくれていると思います。



だいじょうぶ 大丈夫  
うじたなおきさん  
\私の一本/  
『まんが道(青春編)』

人生の軌道修正をしてくれた

昨年4月に逝去された漫画家・藤子不二雄(A)先生原作のドラマ作品です。漫画の神様・手塚治虫に憧れ漫画家をめざす2人の少年満賀道雄と才野茂、同志が集うトキワ荘で切磋琢磨する姿は漫画家を夢見る私にとっても魅力的に映りました。

私は子どもの頃から絵を描くことが好きでした。親に絵を褒められた記憶はないのですが、学校ではやたら褒められ、先生に「もっとたくさん描きなさい」と大量の反故紙をもらうくらいでした。そうして今でいう自己肯定感が植え付けられ、いつかは漫画家になれると思いつき、友人と一緒に漫画を描いたり、出版社に持ち込みをしたりして『まんが道』の真似ごとをはじ



©2006 NHK  
NHK 銀河テレビ小説  
『まんが道(青春編)』(1987)

めました。

しかし高校生になり、前の席に座った友人に誘われたというだけで弓道部に入り、漫画を描くのを一切やめてしまいました。卒業まで部活は続けましたが、ある日このドラマを知り、まんが道へ軌道修正することになりました。主題歌「ホールロード・ユア・ラスト・チャンス」を聴くと今でも心が震えます。